

# Q & A

問題解決!



南部営農センター  
園芸課  
検校 哲也

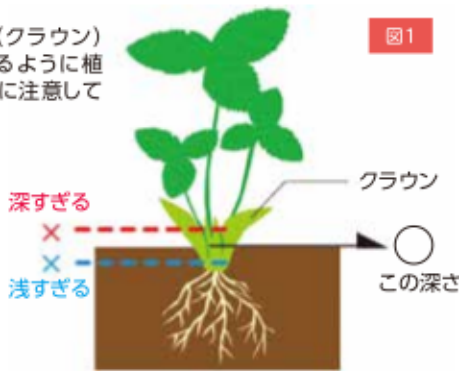
**Q1** イチゴの種を売っているのを見ないのですが、なぜですか。

**A1** 形や味、生育特性など、品質のそろった種を取りにくいからです。

イチゴの実に付いている粒々が種です。品種を育成するときなどは種を取ります。充実したものを選んで休眠を経て発芽させますが、すべてが芽を出すわけではありません。そこから苗を育てるのも簡単ではありません。



葉の付け根(クラウン)が地上に出るように植え付け、乾燥に注意してください。



一般に、増やすときは、親株から伸びたランナー(つる)を育てて苗にします。そろそろ店先に苗が並ぶころです。プランターで育ててみましょう。苗は、ランナーを切り離れた跡のわかるものがおすすめです。イチゴの花は、つながっていた親株とは反対側に咲きます。実がなるのはランナーとは反対側になりますので、苗の向きに気を付けてください。

植え付けるときは、クラウン(株元の生長部分)が土に埋まらないよう必ず出しておきます。(図1、写真1参照)



写真1

保温と泥跳ね防止に、ワラや落ち葉を敷きます。畑では黒マルチを使います。土は、野菜用の培養土を使います。水やりは、乾いたらあげます。畑なら雨任せでかまいません。生育中は、枯葉や傷んだ葉を取り除き、株元をきれいにして風通しを良くします。3月になると葉が伸び花が咲き始めます。畑では、ミツバチなどの虫が飛んできて受粉を手助けしてくれます。ハチの飛んで来にくい軒先などに置いたプランターのイチゴは、人の手で受粉させます。開花したら、晴れた日の風、筆や耳かきのフワフワした梵天などを使い、まんべんなく花粉が行き

渡るように、黄色い中心部をていねいに1〜2回なめます。受粉後、40〜50日で食べられる大きさに育ちます。それまでに出るランナーは、根元から切り取ります。栄養の分散を防ぎ甘い実を育てます。ところで、毎月22日はショートケーキの日なのをご存知ですか? カレンダーを見てください。22の上には15(イチゴ)が乗ってますよね。ショートケーキの上にはイチゴが乗っていることが由来だそうです。

**Q2** 除草剤をまくのは、雨の前、後?

**A2** ラウンドアップやバスタといった茎葉処理剤は、散布後すぐに雨が降ると、薬液が雑草の茎葉から吸収される前に流れてしまいます。散布から1時間経てば雨が降っても大丈夫という商品(ラウンドアップマックスロード)もありますが、散布後6時間は雨の降らない日を選んでくださいという商品が一般的です。

トレファノサイドやゴーソーサなどの土壌処理剤は、まだ雑草が生えていない畑に散布して、発芽したての小さな雑草を大きく育たないようにするものです。土壌処理剤をまくと、土の表面に薄い除草剤の層ができます。この処理層に発芽したての雑草が当たると成分を吸収して枯

る、という仕組みです。つまり、処理層をうまく作ることで、崩さないで維持することが土壌処理剤を上手に使うコツです。うまく処理層をつくるには、まず、土が適度に湿った状態であること。凹凸がないよう表土を細かく耕し、平らに均しておきます。処理層を維持するために表土を崩すのは厳禁で、激しい雨に叩かれるのもよくありません。除草剤をまくタイミングは雨上がりが最適で、間違っても、雨で流れた除草剤で大切な野菜や花を枯らさないように気を付けてください。

オンライン  
農業塾は  
こちら  
動画はコチラ



管内の  
病害虫情報は  
こちら



家庭菜園  
情報は  
こちら

